

①KENTWOOD 高校滞在記（生徒編）

はじめてのアメリカ生活

3年 M・A

高校に入学した時からずっと留学をしたいと思っていましたが、部活など諦めてまでする覚悟がなくて、大学行ってからかなあと考えていましたが、ケント派遣のお知らせを見て、「これは行かねば！」と思い応募しました。英語がたいして上手いわけでもないし、私が行っても大丈夫なのかなあと考えていましたが、くじで当選しました。

ホームステイ前からホストファミリーの子とメールで何回かやりとりをして、ついにアメリカ初日・・・私のホストの女の子、エレインに初めて会った時の第一印象はちっちゃい！ということでした。もちろん私よりは背は高かったのですが、アジア系の子で、外国人みたいにしてすごく背が高いわけではなかったのも、ちょっと親近感がわきました。

空港から家まで車で送ってもらう最中、エレインの家族と初めて英語で話しましたが、私の出鼻をくじく出来事が・・・エレインの両親はフィリピン出身の人で、英語は速くなかったのですが、けっこうなまりがあって、全然聞き取れませんでした。結局、エレインの両親が話し、それをエレインに日本語や英語にしてもらって、やっと2人の言っていることがわかりました。ホームステイ中ずっとエレインの両親や祖父母の言っていることを聞き取るのは大変で、だんだんわかるようにはなってきましたが、多民族ってこういうことなのだなと強く実感しました。

初日はエレインの親戚の結婚パーティーに行きましたが、時差ボケで眠く、途中で帰ってしまいました。いろんな人と挨拶をしましたが、なかなか聞き取れないこともたくさんあり、不安になって、少しホームシックになりました。

二日目はシアトル観光へ。エレインと妹とお母さんと一緒に行き、スペース・ニードルに上ったりしました。本場のクリスピークリームドーナツも食べました!この日はエレインや妹さんとたくさんしゃべれてすごく楽しかったです。

三日目、初めてケントウッド高校にいきました。学校が始まるのが7時35分なのでごく朝早く起きなければならなくて、北野とそんなに変わらなかったです。授業は日本と同じようなものもあれば、ビデオを見るものや、一時間中ずっとパソコンを使って調べたりする授業がありました。驚いたのは、生徒一人一人が自分のパソコンを持っていて、授業でも板書を取ったりせず、タイピングでメモをして、教科書もパソコンの中に入っていたことです。すごいハイテクだなあと感じました。授業の内容はほとんどわかりませんでした。

日本語のクラスの授業はとても楽しかったです。生徒がカタコトの日本語でしゃべって、日本語の単語テストをしているのが新鮮でした。日本語クラスではいろんな人と話せたのが良かったです。日本の文化やアニメを知っている人がたくさんいて、日本人の私よりも

たくさん日本のアニメやアーティストなどを知っていて面白かったです。日本文化を紹介するスピーチで、私は合気道を紹介したのですが、あまり知っている人はいなかったようで、みんなちゃんと聞いてくれたので良かったです。

家ではけっこうゲームばかりやっていました。エレインがゲームの好きな子だったので夜遅くまでゲームして、あとはエレインの好きな音楽を教えてもらったりしていました。

最後の週末は買い物をしたり、またシアトル観光に行ったりして最後までアメリカ生活を満喫していました。帰る前日、荷物を詰めているときにたくさんお菓子とかお土産をもらって、嬉しいけど全部持って帰れるかなあと思いつつも、頑張って詰めました。もうエレイン家の家族も自分の家族みたいに思えて、日本に帰るのがすごく寂しかったです。

10日間アメリカに行ってみて、やっぱり言葉が通じなくて大変なことがたくさんありました。自分で英語を勉強していたのが少し役に立ったと思うこともありますが、やっぱり一番大事なのは、身振り手振りだったり表情だったりというコミュニケーション力だと思います。文化は確かに違うところもありましたが、なんとなく笑うとことかは同じような気がしたので、多分英語できなくても何とかなる！と思います。

ケントを訪ねて

3年 K・T

この10日間のシアトル派遣は、春休みの後半をいつも通り日本で過ごしているだけでは決してできなかったであろう発見や気づきに満ち溢れていました。

私は海外留学に漠然とした憧れはありましたが、今までこういった海外研修のプログラムにはあまり参加してきませんでした。しかし、昨年このシアトル派遣に参加された先輩や夏休みに別の海外研修に参加していた友達の話聞いて一度自分も外国の空気を吸い、日本以外の文化や生活を体験してみたいと思い参加を決意しました。私は、抽選で運良く最初に派遣が決定しました。

その後、説明会があり、私のホストは **Mark** であると知らされました。彼のプロフィールの趣味の欄には一番初めに **Lifting Weight** と書いてありました。彼はひとつ年下のようですが、重量挙げが一番の趣味であるアメリカの男子高校生と聞いて私の **Mark** に対するイメージは一瞬の内にゴリマッチョとなりました。そんな風に色々想像しながらお土産を買い、荷造りをしました。

家族と別れ、飛行機に乗り込んで、遂に大阪を出発しました。東京で国際線に乗り継ぎ、私は生まれて初めて日本を飛び立ちました。シアトルに着くまでに色んな不安や楽しみなどがありましたが、どうにでもなると思い、映画や機内食を楽しみました。

空港に着き、ホストたちが温かく迎えてくれました。ホストたちはそれぞれのゲストの所に近づき挨拶をします。しかし、私の元へ近づいてくる少年は明らかにプロフィールの **Mark** とは違いました。明らかに違うのですが、私は軽く混乱してその少年に「**Mark?**」と聞いてしまいました。もちろん **Mark** ではなく彼は **Davis** といってなんと私の本当のホストだったのです。そのときは訳がわかりませんでした。後で話を聞くと、元々、**Y・T** 君のホストが **Mark** で、私のホストが **Davis** だったようです。向こうからプロフィールを送るときに入れ替わってしまったようです。確かに、私の名前は **T** で **Y・T** 君の名前が **T** なののでややこしいのです。

ということで、私のホストは **Davis** でした。**Davis** のお父さんが運転する車で家に向かう途中に **Davis** のプロフィールをもらい、彼がサッカー少年であることや、日本のアニメが好きなことがわかりました。家に着くと、すぐに **Davis** の友達の家に行きました。そこには、10人ほど友達がいて、その中には **Y** 君と **Mark** の姿もありました。彼らは日本でも人気のあるゲームをしていました。私は、友達の家集まってみんなでゲームをするのはアメリカでも一緒なんだなあと思いました。また、日本のゲーム機やソフトがこんなにもアメリカに馴染んでいるんだとも思いました。**Wii** などのゲーム機が海外でも流行していることを知っていましたが、実際に目にして改めて日本の影響というものを感じました。

いきなり大勢の外国人に囲まれる形になりましたが、みんな優しく接してくれました。

ただ、彼らが英語で喋っているのは全く聞き取れず、これが **English** かと思いました。その日の夜は **Mark** の家でのお泊り会だったので、友達何人かと泊まりました。私は **Davis** の持ってきた寝袋で寝ることになりましたが、まさかホームステイ一日目の夜を寝袋で過ごすとは思ってもみませんでした。次の日も 4,5 人でゲームセンターなどで遊びました。

3日目の月曜日からは **Davis** と共にケントウッド高校に通います。**Davis** も私よりひとつ年下の 16 歳なので車の運転はできないと思っていたのですが、アメリカは 16 歳から運転免許を取ることができるようで、**Davis** も運転できました。だから、学校へは車で通いました。

ケントウッド高校の授業はとても専門的で、生徒が自分でたくさんある授業の中から受けたい授業を選びます。生徒は皆、自分のノートパソコンを持っていて、数学の時間ではそれを使ってテストをしていました。シアトルには、ボーイングやマイクロソフトの本社があり、高校にも早くからさまざまな技術が導入されているとのことでした。

学校でも、やっぱりアメリカは自由だなと思うことがありました。授業中の飲食もそのひとつですが、各自の作業が終われば自由に好きなことをしている感じでした。中でも、海洋生物学では、先生が **Youtube** でミュージックビデオを流していました。北野の先生はいくら時間が余っても再生してはくれないだろうなと思いました。昼食はたいていの生徒が食堂を利用しているようで、日本のように保護者が弁当を作って持たせるということはないようです。弁当というのも立派な日本の文化です。

火曜日の夜には市議会に参加して表彰されました。その帰りに、家族でメキシコ料理のレストランに行きました。美味しかったです。なんせアメリカンサイズですから少し残してしまいました。意外にも、家族みんな残してしまいました。10 日間過ごしてわかったことですが、アメリカ人もいつも全て食べきるわけではなく残しているようです。ご飯を残すことに日本人よりも抵抗が少ないように感じました。

水曜日の放課後は予定がなかったので、**Davis** と日本のアニメを見ました。アメリカに来て、深夜アニメを真剣に見ることになるとは思ってもみませんでした。日本のアニメは世界で大人気であると聞いたことはありましたが、まさか深夜アニメまでが流行しているとは思いませんでした。**Davis** やその友達も私よりはるかにアニメに詳しくなりました。

土曜日の朝は、**Davis** はサッカーの試合があったので観戦しました。**Davis** は B チームのスタメンのようで、がんばっていました。その日の夕方には、**Y・T** 君と **Mark** など 10 人ほどの大人数でシアトルの街に遊びに行きました。**Davis** と **Mark** の車に半分ずつ乗り込み、シアトルに向かったのですが、二人はレースだとか言って猛スピードを出していました。窓を開けて、大きな声を出して車を飛ばします。流石アメリカ人だなと思いました。シアトルには大きなビルが立ち並んでいました。スターバックスの一号店もありましたが意外にも小ぢんまりしていて、人もたくさんいたので写真を撮るだけにしておきました。

大阪に帰らなければならない日の前日、ホストファミリーからたくさんのプレゼントをもらいました。私はプレゼントがあると思っていなかったもので、とても感動しました。10

日間も家に泊めてもらうだけでも大変有難いことなのに感謝しきれませんでした。中には、イチローの人形もありました。Davis はイチローの大ファンでサインボールも持っていて見せてもらいました。ちなみに、僕が渡した日本からのお土産の中には白1色のジグソーパズルもあったのですが、それは Davis のお父さんが4日ほどで完成させていました。彼はパズルが好きなそうです。プレゼントをもらった後、皆で写真を撮りました。その時、私は、明日大阪に帰るのかと考えると少し寂しくなりました。たったの10日間でも私を家族の一員として過ごしてくれたことがとてもうれしかったです。

10日間というとても短い留学期間でしたが、アメリカと日本との違いや、アメリカのよさ、また日本のよさも多く知ることができました。例えば、アメリカでお店に入ると、とても気軽に話しかけてくれるし大変丁寧に接客してくれます。日本の接客は丁寧だとよく聞きますが、アメリカでも十分丁寧だと思いました。ただ、気軽さがまるで友達であるかのようなだったので、日本人の中には嫌だという人もいるかもしれません。

店員の態度ひとつを取っても、日本で知っているつもりになっていることと、実際にアメリカで自分の目で見て、耳で聞いたことには大きなギャップがあったのです。私は、このシアトル派遣に参加して本当によかったと思います。日本以外の生活や文化を自分の目で見ることができたからです。色々な話を聞いて自分の知識を増やすことも大切なことです。しかし、自分自身が肌で感じ、心で感じたことは、自分だけの経験として蓄積されていくはずですが、皆さんも、是非さまざまなチャンスを利用して、海外研修に限らず、たくさんさんの経験をしてみてください。きっと自分にとって大きな財産となります。

ケントでの10日間

3年 Y・A

私にとって留学は初めての経験だったし、外国には憧れていたけれど英語はそこまで得意ではないので、出発までは楽しみ半分不安半分といった感じでした。

空港に到着しホストファミリーに初対面したとき、嬉しさと同時に緊張がこみあげてきました。飛行機の中で「会ったら何を話そう」と色々考えていたはずだったのに、全部頭から飛んでしまって最初は何も喋れませんでした。でも、ホストの Keeley が話題を作ってくれて緊張は少しほぐれました。

それからとりあえずホストの家に向かいました。ちなみに、ホストファミリーは Keeley と妹の Kaylee、とお母さんとお父さんに4人家族です。家について日本から買ってきた、お菓子やお茶、文房具などをあげると、とてもよろこんでくれました。とくに受けがよかったのは Keeley が好きだと言っていたリラックマの柄のクルトガでした。

すこし休憩してからお母さんと Keeley と Kaylee とショッピングモールに買い物に行きました。飛行機の中では全然眠れなかったのにテンションが上がっていたおかげか、全然疲れを感じていなくて、家で休みたいか遊びに行きたいかと聞かれたとき迷わず「遊びに行きたい!」と答えていました。ショッピングモールに行くと日本のキャラクターの人気を改めて感じました。ハローキティやポケモンのものが特に多かったと思います。買い物をしたり、プレッツェルを食べたりして、新鮮な景色にわくわくしながら回りました。店員さんに話しかけられて分からなかったときは Keeley が助けてくれました。

それから仕事終わりのお父さんを迎えに行ってから、イタリアンレストランに連れて行ってもらいました。おいしかったけれど、やはりしゃれにならないぐらい量が多く、1人前が日本の3倍ぐらいあって、半分も食べられませんでした。(テイクアウトして次の日の晩ごはんになりました(笑)) 家に帰ると、さすがに疲れがたまっていてお風呂に入ってから一瞬で寝てしまいました。

次の日起きたらもう11時だったのは驚きました。この日は Family Fun Center という、ゲームセンターのようなところに連れて行ってもらいました。ゴーカートやシューティングゲームなど日本ではなかなかできないこともできておもしろかったです。

それから、日本でもおなじみのコストコにいきました。とても広かったので、見て回るだけでも十分楽しかったです。そこはマフィンやカップケーキなどのアメリカらしいものはもちろん種類が多く充実していましたが、緑茶やほうじ茶が大袋で売っていたのは印象的でした。

3日目、ついにケントウッド初登校日です。学校は見た目から日本の高校と全く違って、どちらかというと大学のような感じでした。話には聞いていたけれど、本当に色んな人種の人がいることに驚きました。アジア系の人も多くケントウッドに通う日本人や日本人の

ハーフの人にも、会うことができました。

私たちが主に参加させてもらったのは、日本語クラスだったのですが、日本が大好きでしょうがない人ばかりでした。特にアニメや漫画から日本のことを知って好きになった子が多くて、日本人の私でも知らないようなことまで知っている子もいて私が逆に教えてもらったりしました。もちろん他にも柔道、空手、剣道などのスポーツからや音楽、和食から興味を持った人もいました。放課後、私たちは日本語クラブの人たちに歓迎パーティーを開いてもらいました。そこには日本が大好きで日本語の上手い子たちが集まっていて、日本の話で盛り上がって楽しかったです。家に帰ってから、ノーソーイングブランケットというものを作らせてもらいました。名前の通り針も糸も必要なくとても簡単に作ることができました。アメリカでは割と一般的なものみたいです。

4日目、登校2日目といってもまだまだケントウッドでの高校生活は驚くことでいっぱいでした。この日は基本的に Keeley と同じ授業を受けたのですが、チャイムが鳴って遅刻していてもみんな平然と教室にはいつてくるし、授業中になんかいろいろ食べているし、Keeley は隣でずっとテトリスばかりやっているし(笑)、北野では絶対ありえないことがたくさん起こっていました。授業はパソコンの教育ソフトを使って行われることが多くて、さすがに教育システムのデジタル化は日本よりもだいぶ進んでいるなと思いました。あたりまえですが授業は全部英語なので、全く内容は分かりませんでした。数学にしても理科にしてもなんとなく教えているポイントが違うのは感じました。

また、この日の放課後私たちはコビントン市の市議会に参加し、市長さんにお会いすることができました。議会の様子を見学するのは初めてで、緊張したけれど、市長さんや市議会議員さんたちが歓迎してくださって、うれしかったです。

5日目、この日の一時間目は特別にオーケストラの授業にさせてもらいました。ケントウッドでは自分のとりたい授業を選べて、毎日同じ時間割なので、好きなことを毎日できるのはうらやましかったです。私たちにとってはクラブ活動で出来ることがもう1つ増えるような感覚だと思います。

授業は他にも様々で私たちが参加させてもらっただけでも、オーケストラのほかに、体育、セラミック（陶芸）、クッキングなど楽しそうな授業がたくさんありました。もちろん数学、理科、社会もあり、中でも語学系は英語、日本語、フランス語など充実していました。

6日目は私たちが日本語クラスでプレゼンテーションをしました。私はお弁当文化について話しました。人前で話すのは苦手だけど、みんなのノリがよくて楽しく話すことができました。放課後は私たちは次の日に開かれる Cherry Blossom Festival のリハーサルのため（私たちは AKB のダンスをしました）ケントメリディアンという高校にむかいました。この祭りはケントウッド、ケントメリディアン、ケントリッジとケントレイクの4校の共催で行われているようで、日本文化を紹介しているそうです。日本からも北野高校に加えて、阿武野高校、市岡高校、そして柔道留学生も参加しました。久しぶりにたくさんの日

本人に会えてうれしかったです。

7日目、ついに登校最終日です。やっと学校にも慣れてきて、友達もできたところだったのにもう終わりだというのがとてもさみしかったです。英語がヘタクソな私にも優しくしてくれる人がたくさんいて本当によかったです。

そして放課後に桜祭りの本番です。ダンスは練習不足でグダグダでしたが、みんな喜んでくれて盛り上がったのでよかったかなと思います。舞台発表のほかにも日本の食べ物が売ってあったり、日本のゲームを紹介していたり、いろいろなブースがありました。一番印象に残ったのが柔道の試合でした。生で柔道の試合を見たことは日本でもなかったので、迫力に驚きました。

8日目、久しぶりに家族がみんなそろって、シアトルに観光に連れて行ってもらいました。最初に行ったのはダウンタウンです。大きなビルがたくさん建っていて、人もたくさんいて、圧倒されました。そこで、有名なスペースニードルに上りました。広大なシアトルの景色を一望できて、気持ちよかったです。

次に行ったのは海沿いのパイクプレイスマーケットです。ここでは日本でもすっかりおなじみのスターバックスの1号店に行きました。今のスターバックスとロゴといえば緑色ですが1号店のロゴは茶色で少しデザインも違いました。

一日で観光名所をいろいろまわれたので、とても楽しかったです。

9日目、あっという間に最終日です。短い間でしたがたくさんの楽しい思い出ができました。できれば、もっと長い間いたいという気持ちでいっぱいでした。ホストファミリーも学校の人たちもとてもよくしてくれて、感謝でいっぱいです。ホストファミリーもまた日本に来たいと言ってくれていたのも、その時は日本のいいところをたくさん教えてあげて、楽しいところにつれて行ってあげたいです。

初めての経験ばかりで、言葉が通じなくて苦労することもあったし、知らない環境で不安な思いをしたこともあったけど、だからこそいい経験になったし、それも含めていい思い出です。ケントウッドに留学に行けて、たくさんの人に出会えてほんとうによかったです。

Kentwood 高校滞在記（教員編）

2015年3月21日（土）～3月31日（火）

英語科 I・K

初めに)

今回、上記の日程でケントウッド高校への派遣に同行させて頂きました。

例年、この Kentwood&Kentlake 高校への派遣プログラムは2週間のスケジュールで行われており、引率教員は前半1週間、後半1週間で入れ替わるという体制が取られていました。しかし、今年は10日程の滞在となり、必然的に引率する教員の数も2人から1人に減りました。国際交流委員会委員長の M 先生からこの引率の話を初めて頂いた時、海外好きの私にとっては願ってもない機会であり二つ返事で引き受けるところだったのですが、実際はお返事するのにかなり躊躇ってしまいました。というのも、当時はまだ教員になってから1年も経っておらず、生徒を引率するという経験も皆無に等しかったので、この様に生徒を海外へ1人きりで引率するという事は、もはや想像するだけでも恐怖だったのです。ですが、そのような不安や緊張も次第と、生徒達の輝く瞳や、アメリカという国の壮大さ、そして現地の人々の温かさによってかき消されてゆきました。結果、様々な人の後ろ盾のお陰、そして、生徒たちの自主性、積極性によって、研修は大成功に終わりました。今回の研修を通じて、私個人としても、また一英語教員としても、本当に得難い貴重な経験をさせて頂いたと感じております。そして生徒たちもまた同様に多くを得、感じ、成長してくれたと確信しています。拙文ではありますが、今回の経験についてつらつらと報告させて頂ければと思います。

往路) 3月21日正午頃、伊丹空港にて集合。

出発の数週間前に北野高校の六稜会館で、生徒がアメリカ現地で行う日本文化プレゼンテーションのための事前研修が行われていた。なので出発以前に、北野高校と阿武野高校の両校からの派遣生徒は既に顔合わせを済ませていて、LINEで連絡先も交換しているようだった。だがやはり緊張しているのか、集合場所ではあまり互いに喋らず、顔もすこし強張っていたように思う。阿武野高校からの唯一の引率教員である K 先生が若手の女性の方であるという事が分かると、私と同年代で少し嬉しく思う反面、二人とも教員経験が浅いことから、更に緊張感が高まった。今となっては笑い話だが、二人で頑張りましょうと励まし合ったのを覚えている。見送りに来て下さった M 先生や阿武野高校の校長先生、そして保護者の方々に祈るように見守られる中、伊丹を発った。成田にて1時間程トランジットを待ち、シアトルへ。航空会社は ANA だったので、添乗員さんは皆日本人、機内食も馴染みの味で生徒も快適そうだった。私は普段なかなか映画を観る時間がないので、ここぞとばかりに3本も観賞した。生徒もベイマックスやインターステラーなどの映画を楽しん

でいるようだった。9時間程のフライトの後シアトル・タコマ空港に到着。現地は正午だったが、体内時計は真夜中の2時、皆まぶたが半分閉じた寝ぼけた状態で **baggage claim** で荷物を受け取った。エスカレーターで地上階に上がる途中に事前に指定した待ち合わせ場所があった。しかしその場で待っていてくれていたのは、**Kentlake** 高校の先生とそのホストファミリーのみで、阿武野高校の生徒たちが各々のホストとの初対面で感激するのに対し、北野高校の生徒たちは自分たちのホストはどこだと茫然状態。10分ほどあたりを必死で捜索して、少し離れたホールで **Kentwood** 高校の **Assistant principal**(副校長)である **Ms. Karen Harrington**、日本語教員の **Ms. Jang Miyeun**、そしてそのホストファミリーに会うことが出来た。ホストの方々はホスピタリティーに満ち溢れていて様々なウエルカムボードを掲げ、ハグで生徒たちを迎えてくれた。生徒達の表情からはつい先程までの疲れは吹っ飛び、「じゃあね、先生」と意気揚々とホストと出かけて行った。

私はまずは無事に生徒をホストへ預けることが出来たことに大いに安堵し、ミヤーン先生とハリントン副校長とメキシカンレストランへランチに出かけた。私自身、英語圏に留学経験があったものの、渡米は今回が初めてだったので、アメリカらしい全ての物 — ナチョスの量の多さ(目測、日本の5倍)、店員の女の子のテンションの高さ、アメリカ英語、特大テレビに映し出されるバスケット etc — が実に新鮮であった。あまりに楽しく興奮し過ぎて、帰りの駐車場でビヨンセを独唱し、ミヤーン先生に苦笑されたのはここだけの話である。その後、ホテルに送り届けて頂き、深い眠りについた。

翌日、日曜)

到着翌日は日曜だった。**Kentwood** 高校の海洋生物学の教員である、**Ryan Chinn** 先生と御友人の **Cameron** 氏に **Seattle** を案内して頂いた。**Ryan** 先生は昨年度の夏に北野高校へいらっしゃっていたので、久しぶりの再会で会話に花が咲いた。**Seattle** の中心街である **downtown** へ連れて行って頂き、有名な **Space needle**、高級住宅街 **Queen Ann**、**Pike place market** や **Starbucks** 1号店といった王道の観光コースを回った。

その中でも特に印象に残っている場所がある。2014 年末に世界で初めてオープンした “**Starbucks Reserve Roastery and Tasting room**” という新しいスターバックスの旗艦店である。**Ryan** 先生とキャメロンも「あの店は、確実に世界で一番カッコいいスタバだ」と一押ししていたので、どの様なものかと期待して訪れると、店の前には観光客が長蛇の列を作り、熱心にセルフィーを撮っていた。何が一体普通のスターバックスと違うのかというと、“**Reserve**” と呼ばれる世界で厳選された5種類のブランド豆を、その場で巨大な焙煎機にかける焙煎工場を中心に、**Tasting room**、図書館、ラウンジスペースなどが置かれ、もはやコーヒー好きのための至高のアトラクションとなっているのである。**Coffee experience bar** ではプロのバリスタがサイフォンで入れるコーヒーが楽しめる。3種テイastingした中でも特に美味しかったのが、**ETHIOPIA** の **YIRGACHEFFE** というブランドの豆で、香ばしさの中にベリーとレモンの香りが広がっていて、あまりの香りの良さ

に思わず”WAO!”と叫んだのを覚えている。ロースターに打ち付けられた世界地図や、窓伝いに並べられたコーヒーの木、コーヒーの収穫の過程を表現したオブジェ等、全てのインテリアが洗練されていて、大人の遊び心をこれでもかという程くすぐられた。そこでゆったりと流れていた優雅な時間は、日本での普段の多忙で荒んだ日々を忘れさせ、干物女のカサカサのメンタルを潤したのであった。

他にも某 Trip Adviser で”Seattle で一番おいしいバーガーショップ”と評される（入り口のドアにステッカーが所狭しと貼られていた）Red Mill へ連れて行ってもらい、本気のアメリカンバーガーのジューシーさに舌鼓をうった。

御多忙の中、朝から晩までもてなして下さった、Ryan 先生、そしてキャメロン氏には感謝もしきれない。この場を借りて改めて深い感謝の意を述べたい。

学校・授業)

北野高校に赴任してきた時、まず授業の始業の早さに驚かされた。HR 等は皆無、8時10分のチャイムと同時に唐突に授業が始められる。しかし Kentwood 高校の朝はもっと早い。1限はなんと 7:35 に始まる。しかも多くの生徒たちが少し早めの朝7時頃にはカフェテリアでおしゃべりをしているのだ。シアトルはやはり雨が多く、実際滞在中も曇りや霧がちこめるような鬱屈とした天気が多かった。この薄暗い中を毎日朝早く登校してくる生徒達は、まあ当たり前なのだが、偉いなあと感心させられた。

23日月曜日、Kentwood 高校への初登校日。学校を訪れるとすぐに迎賓室へ通して頂き、ハリントン副校長先生から Kentwood 高校の T シャツ等のオリジナルグッズを進呈して歓迎頂いた。その部屋の至る所にこれまで北野と阿武野高校が進呈した達磨や日本人形、タペストリーなどのお土産が飾られているのを見て、これまでの交流の歴史の長さが感じられた。その後、ハリントン副校長に校内を案内して頂いた。校内の施設の多様さ、また授業の幅の広さに生徒は圧倒されているようだった。中には、生徒が車の整備の実習を行ったり、プログラミングを行ったり、生徒主体で自主製作するテレビ番組の本格的な撮影を行うものまであった。日本の授業との違いが垣間見えたようで、それについて生徒たちはお互い熱心に意見を交換していた。

ミヤーン先生が担当されている日本語クラスの授業に参加し、生徒たちは日本語と英語の両方で自己紹介を行った。生徒たちの英語は相手に難なく理解され、その事に生徒たちは自信を感じたようだった。教室にはやはり日本文化に興味を抱く子が多く、グループに分かれて交流を行うと生徒たちは怒涛の質問攻めにあっていて、必死に言葉を探しながら身振り手振り話していた。この日本語の授業には後にも何度も参加させて頂くこととなった。

事前に日本で用意したプレゼンテーションを授業内で披露した際にクラスは一番の盛り上がりを見せた。上級生は待ってましたとばかりに、生徒達の発表に熱心に耳を傾けてい

た。M・Aさんが合気道の技を披露するというプレゼンを行った際には、小柄な彼女の3倍の大きさもある屈強なアメリカ男子（写真参照）が次々と彼女に挑んでいき、見事にねじ伏せられていた。1日で計4回もプレゼンの機会を頂き、生徒も回を重ねるごとにどんどんと上達していった。この経験は間違いなく生徒の自信に繋がったことだろうと思う。

Cherry Blossom Festival（桜祭り）

27日金曜日、Kent-Meridian 高校にて Cherry Blossom Festival が開催された。Cherry Blossom Festival とは、3月末に Kent 地区の Covington 市にある Kentridge 高校、Kentlake 高校、Kent-Meridian 高校、そして Kentwood 高校の四校が合同で行うお祭りである。数多くの在籍生徒や家族が集まり、日本文化を様々な活動を通して愛でるという、日本人にとってはこの上なく名誉で有難いことだった。Kent-Meridian 高校と派遣プログラムの提携をしている府立市岡高校、そして阿武野高校の生徒もその場に会し、華々しい開会のセレモニーの壇上にて、日本派遣団は Covington 市長や、教育長？らしき方々から紹介を賜った。知っている生徒の紹介になると、観衆が大歓声で応援するのはやはりアメリカらしい。歓声やブーイングが飛び交い、会場全体が興奮状態だった。稲荷寿司や、焼きそば、たこ焼き、駄菓子などを売る屋台が立ち並び、日本文化を展示するスペースや、日本のゲーム（大乱闘スマッシュブラザーズに男子たちは夢中だった）や漫画がおかれたブースが設けられていた。大講堂では日本のダンスや歌の出し物が催されており、我が北野高校の生徒達は AKB を2曲ほど踊ったのだが、流石アメリカ、観衆がそれはもう大いに盛り上げてくれ、大歓声の中ダンスは成功に終わった。

このような大企画は、開催するのに相当な尽力が必要だっただろうと、現地の先生方の苦勞が計り知れなかった。来年度は北野が提携を結んでいる Kentwood 高校が主賓であるので、ミヤーン先生とハリントン副校長は大いに意気込んでおられた。ハリントン副校長が「この交換留学プログラムや桜祭りは単なる職務ではない。日米の友好関係にも大いに貢献するし、生徒の思い出として深く心に刻まれ、様々な人々の繋がりを生む。今後も大事にしていきたい。」と仰っていたのが、本当に心に響いた。そのような人々の善意によってこのような素晴らしい祭りが続いていることに、心からの感謝と幸せを感じ、今後もそれが続くように私も微力ながら尽力していきたいと強く思った。

最終日（週末）

最終日付近の週末28日、29日は本田さん一家にホストをして頂いた。本田さんとは、日本語の授業を選択する Kentwood 高校4年生の、本田アシュリーさん（以下アシュリー）のお宅である。お母さんが日系のハワイ出身の方で彼女は4世にあたるそうだ。Kentwood 高校の柔道部キャプテンを務め、そして2015年9月に Kentwood 高校を卒業した後にはハワイ大学へ進学するという、文武両道のパワフルガールだった。以前、柔道の交換派遣プログラムで大阪を訪れたことがあったそうで、（シアトルと大阪は柔道を通した長い交流の

歴史がある)今回こちらが急にホストファミリーを希望したところを、日本への恩返しにと、快く引き受けて下さったのだった。

土曜には柔道部の **Fund Raiser** に参加させてもらった。**Fund Raiser** とは、レストランと学校の部活動が独自に提携を結び、生徒がそこでアルバイトをさせてもらい、その家族や親戚が食事をしにくるという地域密着型の資金集めである。レストランと部活の両者にとって **Win-win** なだけでなく、地域のお客さんに部活動に興味を持ってもらい、応援をしてもらえたらという狙いもある。日本では接客スキルなどが重視される傾向にあるので、実現は難しいかもしれないなとすこし寂しく思った。私も柔道部の関係者の皆さんの仲間に入れてもらい、店のお手伝いをした。活動資金も集まり、皆ハッピー。なんと優しい世界だろう。

その後、アシュリーと妹のアレーナとお母さんの4人で、ワシントン大学へと出かけた。構内では桜が咲き乱れ、一面に広がる芝生の上で大学生たちが音楽を奏でたり、ただ寝転がっておしゃべりをしていた。こんな大学生活送ってみたかったなあと少しだけ心の中で思った。近くの **University City** にてショッピングも楽しんだ。

日曜日には、お母さんがクリスチャンということもあり、日系の方が集まる教会に礼拝へ行った。妹のアレーナも敬虔なクリスチャンであり、その日はイースターの劇に参加していた。一方のアシュリーはというと、今はキリスト教への興味も信仰心も失ってしまった様子で、ミサの最中もずっと携帯で友達とのチャットを楽しんでいた。年頃の子ってそんな感じだよ、と私は微笑ましく彼女の様子を眺めていた。私自身は **atheist** なのだが、もしかしたら神様もいるかもしれないなどと適当なことを考えながら、いるかもしれない神様に今回の全ての出会いを感謝した。

復路、終わりに)

ホストファミリーとの別れを惜しみつつ、シアトルを発った。現代の子たちは **skype** や **LINE** で今後も気軽に連絡を取り合うことができるので、今生の別れ程の悲しさはないようで、笑顔で再会を誓いあっていた。帰途において実は幾つかトラブルが発生していたのだが、なんとか皆日本に帰国することが出来た。伊丹空港では保護者の方々、阿武野高校の先生方、そして **W** 先生がお迎えに来て下さっていた。生徒はもちろんのことだと思いが、私も安堵の感情が込み上げてきた。が、すぐ翌日から学校にて山のような仕事が待ち受けていた。

振り返ればあっという間の10日間でした。ホストをして下さった本田さん一家、ミヤーン先生、ハリントン副校長、ライヤン先生をはじめとする **Kentwood** 高校・**Kentlake** 高校の先生方、**M** 先生をはじめとする北野高校国際交流委員会の先生方、**K** 先生をはじめとする阿武野高校の先生方、旅行会社の方々、そしてなによりこの派遣プログラムの主人公である、北野高校および阿武野高校の派遣団生徒8名に心からの感謝の意を述べて、この

報告を終えたいと思います。研修を通じて感じた、その熱い気持ちを忘れず、次のステップへと繋げて行って下さい。どうもありがとうございました。